

# 北関東防衛局広報

平成29年秋(第94号)

編集・企画発行 北関東防衛局総務部広報室  
さいたま市中央区新都心2-1  
<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



写真提供：海上自衛隊新潟基地分遣隊

越後の風にはためく国旗に敬礼 海上自衛隊新潟基地分遣隊

## 目次

## CONTENTS

- 1 特集！海上自衛隊新潟基地分遣隊 ～新潟県新潟市～
- 4 防衛省北関東防衛局は設立10周年を迎えました
- 5 防衛施設周辺環境整備事業  
／第38回防衛問題セミナー開催 ～埼玉県さいたま市～
- 6 平成29年版防衛白書の刊行
- 7 百里基地で米軍再編に係る訓練移転を実施
- 8 防衛施設建設に係る優秀工事の顕彰  
／硫黄島で米空母艦載機が着陸訓練を実施
- 9 我が街紹介 ～東京都西多摩郡瑞穂町～
- 10 基地周辺地域との交流 ～米空軍横田基地～  
／お知らせとお願い



# 特集！海上自衛隊新潟基地分遣隊 ～新潟県新潟市～

## 「みなとまち新潟」とともに

### 新潟基地分遣隊の概要

海上自衛隊新潟基地分遣隊は、信濃川河口港である新潟港西港区に隣接しています。付近には、大型客船や自衛艦がしばしば使用する「山の下埠頭」があり、日本海側唯一の政令指定都市である新潟市中心部や国際空港である新潟空港にも近く、利便性の高い立地となっています。

昭和20（1945）年の終戦時、新潟港及びその周辺には約780個の機雷が残され、港の海運能力は失われていました。機雷の掃海は昭和23年から海上保安庁によって本格的に行われ、昭和27年の新潟港安全宣言後は貨物量も増加していきましたが、依然として存在する不発弾処理等の必要性から同年8月、保安庁（防衛省の前身）の発足とともに、前身となる新潟航路啓開隊が新編され、昭和31年に新潟基地分遣隊となりました。航路啓開隊時代も含めれば、65年に及ぶ歴史の中で多数の爆発性危険物等の処理や災害派遣に従事するなど、部隊は地域の安全と発展を現在も見守り続けています。



新潟基地分遣隊 正門前

### 新潟基地分遣隊の主な任務

新潟基地分遣隊の組織は、総務科、警備科、補給科の3科により編成されており、北陸から秋田に至る日本海沿岸で唯一の海上自衛隊基地です。主要な任務は、基地の警備及び管理、艦艇の支援、警備上の調査及び海上における危険物の処理であり、他自衛隊や地方自治体等と緊密に連携し、大規模災害派遣等の各種事態への対応及び爆発性危険物の処理を行うとともに、担当地域における防衛基盤の育成も重視しています。



防災訓練参加支援

### 新潟地震（S39.6.16）の記憶

「日没になると、停電と家屋の浸水のため、寝場所を失った山の下地区の人達が、不安におののきながら、家財を背負って、隊内に避難してきた。その数は、1千余人を超え、運び込まれた家財は600立方メートルにも達し、さすがに広い構内も、人と物で埋め尽くされた。」

第18代隊長（当時は通信所長）田中登氏の回想より

粟島南方沖を震源とするM7.5の地震により新潟市の震度は5、全壊家屋1,960棟、津波や液状化により浸水した家屋は、山の下地区を中心に15,297棟に達しました。同年4月に同地区に移転したばかりの分遣隊庁舎（当時）も2度傾斜、倉庫一部損壊等の被害を受けましたが、元々葦の生えた湿地であった当地の地盤沈下に備え相当の高上げをしていたことが功を奏し、冠水や基地機能の喪失もなく、1,000名を超える付近住民の収容保護などの災害対応に尽力しました。



新潟地震当時の新潟基地分遣隊庁舎

## 新潟基地分遣隊の活動

### ゴムボート操縦訓練

災害により道路が寸断された場合にも現場に急行して所要の支援ができるように、新潟の地理的特性を考慮した訓練を実施しています。また、ゴムボートの輸送や運用に必要な車載クレーンの操縦技量の維持向上訓練も兼ねています。



### 出入港支援

国際拠点港湾である新潟港は、日本海側随一の規模を誇っており、年間を通じて補給や広報、時には災害派遣のために自衛艦が入港します。

その入出港を円滑に支援することが、新潟基地分遣隊の重要な任務です。



## 地域との交流

### 地域中学校の学習支援

毎年7月、分遣隊にて地域中学校の体験学習支援を行っています。普段目にすることがない海上自衛隊としての魅力をアピールし、学習支援を通じて、海上自衛隊への理解を深め、働くことの意義や団体生活のルールなどについて理解を図っています。



結索訓練の様子

### 餅つき大会

毎年12月には、忘年会を兼ねて餅つき大会を行います。会場には炊きたてのもち米と餡やきな粉のほか、温かいお雑煮やカレーを準備します。

餅つき大会は、近隣住民の方や自衛隊協力団体の皆様と新潟基地分遣隊との親睦を深める大切なイベントでもあります。



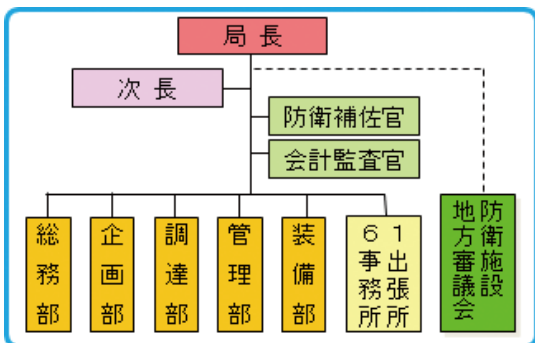
# 防衛省北関東防衛局は設立 10 周年を迎えました

## これからも「防衛行政の地方拠点」として 自衛隊・在日米軍と地域住民をつなぐ「架け橋」として

北関東防衛局は、平成 19 年 9 月 1 日に東京防衛施設局及び装備本部東京支部の業務を継承し、関東信越地方のうち 1 都 7 県（東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、新潟県及び長野県）を管轄する防衛行政の地方拠点として設立され、今年 9 月に 10 周年を迎えました。この 10 年間、わが国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増し、防衛行政が果たすべき役割はますます複雑、高度なものになっています。

北関東防衛局は、地域のニーズに柔軟に対応しながら今後も

与えられた役割に誠意を持って取り組み、自衛隊・在日米軍と関係自治体そして地域住民をつなぐ「架け橋」として引き続きその重責を担って参ります。



## 北関東防衛局の業務と取組

### 1 防衛施設の安定的な使用に向けた各種施策の実施等

- 自衛隊・在日米軍による各種訓練の実施、部隊の改編、新たな装備の配備等を行う場合、必要な各種情報の提供や調整を関係自治体等との間で行っています。
- 防衛行政への国民の皆様のご理解等を得るため、防衛白書の広報、防衛問題セミナーや日米交流事業の開催等の施策を行っています。
- 自衛隊・在日米軍の活動や防衛施設の設置・運用により生ずる障害を防止・軽減・緩和するため、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律等に基づき防衛施設と周辺地域との調和を図るための諸施策を行っています。
- 大規模震災等の各種事態において、自衛隊・在日米軍や関係自治体等と必要な連絡調整等の業務を行います。

【コラム参照】

### 2 防衛施設の取得・管理等

- 自衛隊・在日米軍が使用する土地・建物等を安定的に使用できる状態とするため、取得・管理等の業務を行っています。  
特に、飛行場等周辺に所在する防衛省所管の国有地（いわゆる周辺財産）については、地域の要望に基づき、自治体に対し使用を許可し、例えば、当該自治体が公園やスポーツ施設等として活用している例があります。

### 3 防衛施設の建設等

- 自衛隊・在日米軍が使用する飛行場、通信施設、庁舎、隊舎及び病院など幅広い施設の建設工事を実施しています。

### 4 防衛装備品の検査等

- 自衛隊が使用する装備品等に関する業務調査、原価監査、監督検査その他契約の履行に関する業務を実施し、年間約 8,500 件の監督・検査、約 50 件の原価監査を実施しています。

### 5 在日米軍従業員の労務管理

- 在日米軍基地等に事務、技術及び販売等で勤務する従業員を雇用し、約 2,700 人の労務管理を行っています。

### 【コラム】

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、北関東防衛局は「北関東防衛局災害対策本部」を設置し、東部方面総監部へ連絡員を派遣し、部隊と連携を図り、各種被害状況等の把握に努めるとともに、部隊等からの支援要請に基づき、被災施設を調査する技術支援チーム（応急危険度判定士の有資格者を含む調達部技官及び各部の支援要員）を編成し、被災当日より、自衛隊施設等の庁舎、管制塔等の安全性について調査を行いました。



## 防衛施設周辺環境整備事業

### 福生市防災食育センターの完成 ～東京都福生市～

8月27日(日)、福生市主催の「福生市防災食育センター」竣工記念式典が開催されました。式典には、加藤福生市長、杉山市議会議員とともに、当省から深山地方協力局長、吉田北関東防衛局長が出席し、防災と給食機能を併せ持つ同施設の竣工を祝いました。

式典では、福生市内の中学生が歌や踊りを披露し、また、司会の中学生から「新学期から給食が始まることを楽しみにしている。」との喜びの言葉が述べられる等、期待と喜びのこもったものでした。

当局は、この事業に対して、国有地(いわゆる周辺財産)の使用を許可するとともに、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく「まちづくり支援事業」として、事業費の一部(約22億円)を補助しました。

#### 【防災食育センターの概要】

敷地面積：約9,800㎡  
 延床面積：約4,800㎡  
 規模構造：鉄骨造・RC造2階建  
 事業費：約30億円  
 調理能力：4,000食  
 応急給食機能：1万5千人に1日  
 おにぎり2個と汁物を3日間提供



### 第38回防衛問題セミナー開催 ～埼玉県さいたま市～

#### 弾道ミサイルの脅威に備えて～BMD構想と政府の取組～

6月23日(金)、第38回防衛問題セミナーを「弾道ミサイルの脅威に備えて～BMD構想と政府の取組～」と題し埼玉県県民健康センター(さいたま市浦和区)において開催しました。会場には約280名の方が来場され、講演に続く質疑応答では来場者から多くの質問や意見をいただきました。

なお、今回の開催にあたっては、埼玉県及び自衛隊埼玉地方協力本部の後援をいただいています。

今回のセミナーは2部構成で、第1部では、防衛省で有事に係る対処基本方針の企画・立案等を担当している飯島秀俊防衛政策企画官に「北朝鮮情勢と弾道ミサイル防衛について」をテーマに講演していただきました。飯島企画官は、北朝鮮の保有する弾道ミサイルの性能が向上していることを指摘した上で、防衛省としては、イージス艦の増勢や同時対処能力の向上等、弾道ミサイル防衛システムをしっかりと整備・運用することにより、いかなる事態においても国民の生命財産を守るべく万全を期していきたいと述べていました。



飯島防衛政策企画官



伊藤内閣参事官

第2部では、内閣官房で緊急事態への対処に関連する施策の企画・立案等を担当している伊藤敬内閣参事官に「Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達について」をテーマに講演していただきました。伊藤参事官は、防災無線や携帯メールなどでJアラートのメッセージを受けた時取るべき行動について説明し、こうした情報を広く国民に知ってほしいと訴えました。



参加者からは「弾道ミサイルの脅威が高まっていることや、我が国を守るためにどのような措置をとっているのかがよくわかった。」「Jアラートの重要性について再認識した。避難訓練がある場合は参加してみたい。」などの感想が寄せられました。

# 平成29年版 防衛白書の刊行

8月8日(火)、平成29年版防衛白書が閣議で了承され、刊行されました。防衛白書は、わが国の内外に向けて、わが国の防衛政策への理解の促進を図るために毎年刊行しているものであり、今回で43回目の刊行となります。昨年7月の平成28年版の刊行から概ね1年間に発生した事象や取りまとめた政策などを中心に記述しています。



## 29年版防衛白書の特徴

平成29年版防衛白書で防衛省は、①分かりやすさの追求、②巻頭特集の充実、③読者の拡大に取り組んでいます。①分かりやすさの追求については、専門用語を「キーワード」として本文中にハイライトし解説するなど工夫を凝らしました。②巻頭特集については、より多くの国民の皆様へ防衛省・自衛隊に興味を持っていただけるよう昨年よりも大幅に拡充し、「防衛省移行後の10年間の歩み」「日本の防衛この1年」「女性自衛官の活躍」「優秀な人材の確保」の4つのテーマに写真や図などを用いて分かりやすく記述しています。③読者の拡大に関する取組として、これまでの防衛省ホームページでの無料ダウンロードのほか、新たに民間電子書籍市場 (Amazon [Kindle]、楽天 [Kobo]、紀伊国屋書店 [Kinoppy]) においても無料ダウンロードできるようにし、多くのチャンネルを通じて閲覧、入手できるようにしました。



4つのテーマの巻頭特集



## 29年版防衛白書の内容

平成29年版防衛白書は、昨年と同様、3部で構成しています。  
● 第I部では、一層厳しさを増すわが国を取り巻く安全保障環境について、北朝鮮による核兵器・弾道ミサイル開発や運用能力の向上、中国による積極的な海洋進出等のほか、拡散する国際テロリズムの動向等の各種事象について記述しています。

- 第II部では、我が国の安全保障・防衛政策と日米同盟として、統合機動防衛力の構築を軸としたわが国の防衛の基本方針、平和安全法制の整備と施行後の自衛隊の活動状況、わが国の安全保障の基軸である日米同盟の強化等について記述しています。
- 第III部では、国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くための取組として、弾道ミサイル攻撃や大規模災害などへの対応、国連PKOなどの国際平和協力活動、今回新たに章立てした防衛力を支える人的基盤と女性隊員の活躍、防衛装備・技術に関する諸施策、地域社会・国民との関わり等について記述しています。

防衛省・自衛隊が任務を着実かつ的確に遂行するためには、何よりも国民の皆様のご理解とご支援が不可欠です。一人でも多くの方に防衛白書を手にとっていただき、わが国の防衛政策に対しご理解をいただき、防衛省・自衛隊をより身近なものに感じていただけることを願っています。

# 百里基地で米軍再編に係る訓練移転を実施

## 百里基地で8回目

7月7日（金）から21日（金）までの15日間、航空自衛隊百里基地（茨城県小美玉市）において米軍再編に係る訓練移転（日米共同訓練）が実施されました。

今回の訓練は、米海兵隊第12海兵航空群（山口県岩国市）からF/A-18戦闘攻撃機6機、航空自衛隊第7航空団（百里基地）からF-4戦闘機4機（19日（水）のみ8機）が参加し、百里沖空域において戦闘機戦闘訓練等を行いました。訓練期間中は天候に阻まれることもなく、計画どおりに訓練を終えることができました。

米海兵隊第12海兵航空群のミラー中佐及び航空自衛隊第7航空団の唯野2佐は、今回の訓練の成果について、「戦闘機操縦者の戦術技量及び相互運用性を向上させることができた。特に戦闘機相互の間で空中戦の各場面における戦闘要領が演練をできたこと、フェイストゥフェイスによるブリーフィングにより相互の理解を促進できたことを高く評価し、今回の成果は、二国間の相互運用性の更なる向上につながると考える。」と述べました。

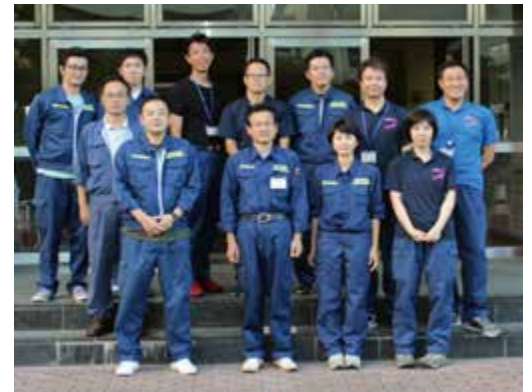


## 北関東防衛局が訓練を支援

### 【百里基地内に北関東防衛局現地対策本部を設置】

7月4日（火）から22日（土）までの間、北関東防衛局は百里基地内に現地対策本部を設置し、百里基地や茨城県警察等関係機関との緊密な連携のもと、関係自治体との連絡調整及び訓練に係る情報収集等を行いました。また、訓練移転の騒音の実態を把握するため、基地周辺5箇所において騒音測定を実施しました。

そのほか、訓練期間中に住民生活に支障を来すことがないように基地周辺の巡回、関係自治体との調整や情報共有を行うなど、訓練の円滑な実施等のための総合的な支援及び地元住民の方々の安全・安心の確保の両立に努めました。



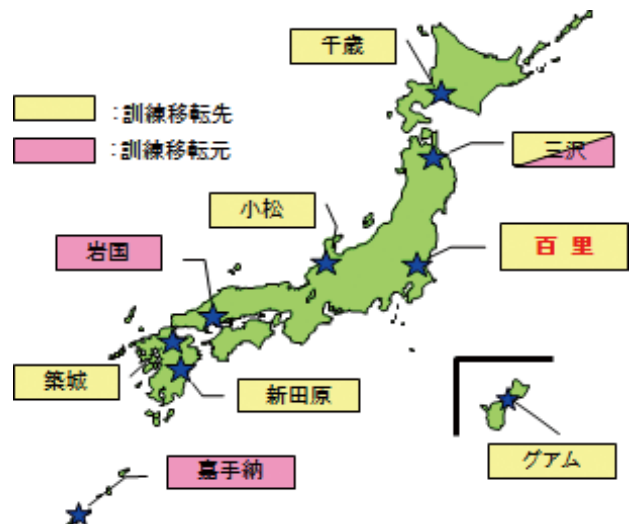
### 【自治体関係者の視察・報道機関への公開に対応】

7月18日（火）、今回の米軍再編に係る訓練移転（日米共同訓練）について理解を深めていただけるよう北関東防衛局及び百里基地が連携して、基地周辺の関係自治体による訓練視察を実施しました。訓練視察は約50名が参加し、訓練移転の概要説明及び整備場、滑走路等の施設案内を実施しました。

7月7日（金）及び20日（木）、各種メディアに対する報道公開も実施しました。報道公開には約10名が参加し、訓練機の撮影や、訓練状況の取材に対応しました。

### 米軍再編に係る訓練移転とは

平成18年5月の再編実施のための日米ロードマップに基づき、二国間の相互運用性の向上及び米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減することを目的として実施しています。平成18年度以降、米軍の嘉手納、三沢及び岩国飛行場から、航空自衛隊の千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原飛行場へ航空機の訓練移転を実施しており、全国では合計47回目、北関東防衛局管内の百里基地においては、平成27年9月以来約2年ぶり8回目の訓練移転となります。



## 防衛施設建設に係る優秀工事の顕彰

### 優秀工事3社に対し顕彰状を授与

6月29日(木)、北関東防衛局において、特に工事目的物の出来形・品質が優れており、他の模範とするにふさわしい、優秀工事(平成28年度に完成)を行った3社に対し竹内調達部長(当時)から顕彰状が授与されました。

#### 【顕彰の各社と対象工事】

##### 福田リニューアル株式会社【写真左】

##### 入間(28)通信局舎新設建築工事

- ・着工後に判明した地下埋設物による工程への影響の回避や厳格な施工精度を確保するため適切な施工管理を行った

##### 住友電設株式会社東京本社【写真中央】

##### 市ヶ谷(27)講堂映像設備等整備工事

- ・使用頻度が極めて高い施設において、限られた期間内に確実な施工を行った

##### 経塚工業株式会社【写真右】

##### 入間(28)宿舎ガス設備改修工事

- ・在宅状況を踏まえた工程調整により日常生活への支障を極力回避しながら工事を完成させた



#### 優秀工事顕彰とは

北関東防衛局が行う防衛施設の建設工事における、建設会社等の更なる技術力の向上、品質の向上等を目的として、当局が発注する建設工事や設計業務等のうち、工事目的物、成果品等の出来形・品質が優れており、他の模範とするにふさわしい建設工事等を行った会社等を顕彰するものです。

また、これら顕彰された会社等については、今後3年間にわたり、総合評価落札方式の評価において加点される等のアドバンテージが与えられます。

## 硫黄島で米空母艦載機が着陸訓練を実施

### 訓練期間中約3,100回の着陸訓練を実施

5月2日(火)から12日(金)までの11日間、硫黄島飛行場(東京都小笠原村)において、米空母ロナルド・レーガンの艦載機による空母艦載機着陸訓練(FCLP: Field Carrier Landing Practice)が実施されました。

北関東防衛局は、訓練に必要な食料や役務の提供を行うとともに、職員を硫黄島へ派遣し、米海軍や現地の海上自衛隊及び航空自衛隊との連絡調整などの支援を実施しました。

今回の訓練は、米空母艦載機のF/A-18戦闘攻撃機、E/A-18G電子戦機、E-2早期警戒機、C-2A輸送機が参加し、天候に左右されることなく、予定していた全ての訓練が行われ、着陸訓練の回数は約3,100回になりました。

硫黄島での訓練は、厚木飛行場周辺の航空機騒音を軽減するため、平成3年から実施されており、今回で53回目になります。北関東防衛局は、訓練実施に当たって必要な支援を行っていますが、同時に今後も硫黄島で可能な限り多くの訓練が行われるよう、米側に求めて参ります。

#### 空母艦載機着陸訓練とは

米海軍空母の出航に先立ち、空母艦載機が海上で空母に安全に着艦できるよう、パイロットの練度の維持・向上を目的として、陸上の飛行場の滑走路で行われる着陸訓練で、米海軍の艦載機のパイロットにとって必要不可欠な訓練です。





# 我が街紹介 ～東京都西多摩郡瑞穂町～

## みらいに ずっと ほこれるまち

瑞穂町は、東京都心から西へ約 40 km、狭山丘陵の最西部に位置しています。狭山丘陵は、緑豊かな動植物の宝庫として知られ、四季折々の姿に訪れる人々の心が和まされます。また、平成 24 年 3 月に策定した「水・緑と観光を繋ぐ回廊計画」により新たに狭山丘陵の自然や残堀川の水辺、郷土資料館「けやき館」、「さやま花多来里(かたくり)の郷(さと)」などの拠点を繋ぐハイキングルートを形成しています。このルートにハイキングなどを楽しむ方々が訪れています。

一方で我が町は国道 16 号や新青梅街道などが行き交う道路交通の要衝であり、圏央道青梅インターチェンジにも近いことから、近年は大型商業施設や物流関係施設の立地が進んでいます。

さて、我が町には在日米軍司令部と航空自衛隊航空総隊司令部が置かれる横田基地があります。前身の旧陸軍多摩飛行場の設置は瑞穂町の誕生と同じ昭和 15 年ですから、その歴史は我が町とともに歩んできました。

我が町に暮らす全ての人々が、自らの町に誇りと愛着を感じながら、未来に引き継いでいく

「みらいに ずっと ほこれるまち」

を目指し、これからも発展していきます。



狭山池公園

## 防衛施設周辺対策事業

瑞穂町では、国の助成制度を活用し様々な施設整備を実施しています。近年、特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用した施設を紹介します。

### 郷土資料館「けやき館」

「けやき館」では、瑞穂町の歴史や文化、自然について楽しく学ぶことができます。また、「水・緑と観光を繋ぐ回廊計画」の拠点施設として、瑞穂町でしか見られない魅力を発信する資料館を新たに整備しました。

平成 26 年 11 月の開館後、今年の 9 月 1 日には来館者数が 10 万人に達し、多くの方にご利用いただいています。



### さやま花多来里の郷

「さやま花多来里(かたくり)の郷(さと)」は 20 万株以上のカタクリが咲き誇る、都内随一の群生地です。「春の妖精」と異名を持つ花で、数万株に 1 株といわれる白い花が見られることもあります。

平成 29 年の来場者数は 1 万 6 千人を超え、多くの方々の目を和ませています。



文・写真とも瑞穂町に寄稿していただきました。

# 基地周辺地域との交流 ～米空軍横田基地～

## 第38回関東地区スペシャルオリンピック開催

6月17日(土)、米空軍横田基地で「第38回関東地区スペシャルオリンピック」が開催されました。スペシャルオリンピックは、知的発達障害のある人の自立や社会参加を目的として世界各国で行われています。関東地区スペシャルオリンピックは、1980年、第1回大会が在日米軍国防省立学校の選手3人が参加して開催されて以来、毎年横田基地で開催されています。



写真は「Yokota Air Base Home」に提供していただきました。

今回の第38回大会は、横田基地に所属する米軍人、在日米軍従業員からなる関東地区スペシャルオリンピック実行委員会が主催し、横田基地、関東の障害者支援施設・学校や団体などから145人の選手と、横田基地の軍関係者や関東地区の各自衛隊の曹友会など約1,000人のボランティアが参加しました。

大会は、選手の入場行進、灯火式で始まり、50m、100m、200m走、400mリレー、サッカーシュート、水泳、立ち幅跳び、フライングディスク、ソフトボール投げ、ボーリング、バスケットボールと様々な競技が行われ、真剣に競技に取り組む選手の家族や参加したボランティアから選手に対して、熱い声援が送られていました。

なお、昨年の「第37回関東地区スペシャルオリンピック」の様子が、平成29年版防衛白書(331頁)の「米軍と地域住民による交流」に紹介されています。

### お知らせとお願い

#### 航空機へのレーザー照射は犯罪です

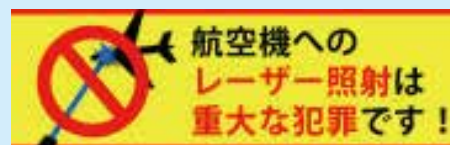
##### 【北関東防衛局からのお願い】

自衛隊機・米軍機等に対するレーザー照射による妨害行為を行っている人を見かけた方は、**110番通報**をお願いいたします。

- 自衛隊機・米軍機等に対するレーザー照射による妨害事案が多発しています。
- このような行為は、墜落等による大惨事を招きかねない大変危険で悪質な行為です。刑法の威力業務妨害罪に該当する場合は**3年以下の懲役又は50万円以下の罰金**。航空危険行為処罰法の航空危険罪に該当する場合は、**3年以上の有期懲役**。

【平成27年12月及び平成28年11月に威力業務妨害罪で逮捕実績あり】

お問い合わせ先  
北関東防衛局企画部地方調整課  
(電話) 048-600-1800 (内線2234)



【北関東防衛局 HP にバナーを掲載】

★「北関東防衛局広報」のバックナンバーは、北関東防衛局のホームページでご覧になれます。

[www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhou.html](http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhou.html)

北関東防衛局広報

検索